

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(11 月 13 日～11 月 19 日)

2023 年 11 月 30 日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- フレニン国防大臣及びパントゥス国家軍需産業委員会委員長一行のアラブ首長国連邦(UAE)訪問(11 月 13 日、14 日)
- ルカシェンコ大統領は、パシニャン・アルメニア首相と電話会談(11 月 14 日)
- アレインク外務大臣一行の赤道ギニア訪問(11 月 14 日、15 日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●パシニャン・アルメニア首相との電話会談

- (1)コーカサス情勢、二国間関係、開催予定の集団安全保障条約機構(CSTO)首脳会合の議題につき協議。
- (2)エイスマント大統領報道官は、会談について、以下の旨発言。

・パシニャン・アルメニア首相が CSTO 首脳会合のためのミンスク来訪を拒否したことに対し、ルカシェンコ大統領は、これはあらゆる国家の指導者の事項であることを理解し、穏やかに接している。

・CSTO 首脳会合への招待状は、アルメニア首相にも、他の国家元首にも送られている。例えばプーチン露大統領にも、最近行われた電話会談の際に招待がなされており、同大統領は招待を受け入れた。

・ルカシェンコ大統領は、自らの経験と、同様の状況における他の有名な政治家の振る舞いを踏まえ、アルメニア首相に、焦って早急な決定をするのではなく、次なる一歩次第では統合が瓦解しかねないということを真剣に考えるよう提案。

(11 月 14 日 大統領府)

副大統領とそれぞれ会談。また、シメオン・オヨノ・エソノ・アンゲ赤道ギニア外務・国際協力・ディアスポラ大臣とともに、現在合意に向けた交渉を行っている約 14 の二国間文書に関して、法的枠組みの大幅な拡大に向けた作業を継続。

(11 月 15 日 外務省)

●エフィモフ産業次官の中国訪問

- ・中国工業情報化部を訪問し、ベラルーシと中国の間の産業政策の接点に関する詳細な計画に署名。
- ・中国機械工業連合会(CMIF)との会合を実施。

(11 月 17 日 産業省)

●ウクライナは、ウクライナの子どものベラルーシへの連れ去りに関与する「アレクセイ・タライ財団」及び代表者のタライ氏に対し、制裁を導入

(11 月 19 日 「ゼルカロ(鏡)」)

【内政】

●11 月 17 日現在の政治犯の数は 1,449 人

(11 月 17 日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【外交】

●アレインク外務大臣一行の赤道ギニア訪問(11 月 14 日、15 日)

・アレインク外務大臣の他、バルトシュ農業食糧大臣、ピネヴィチ保健大臣、ストリャロヴァ国家科学技術委員会副委員長をはじめ、高等教育機関、実業界、金融業界の代表者 40 名以上が赤道ギニアを訪問。

・アレインク外務大臣は、オビアン・ンゲマ赤道ギニア大統領、テオドロ・オビアン・ンゲマ・マンゲ赤道ギニア

【軍事・安全保障】

●フレニン国防大臣及びパントゥス国家軍需産業委員会委員長一行のアラブ首長国連邦(UAE)訪問(11 月 13 日、14 日)

・11 月 13 日、フレニン国防大臣はボワルディ UAE 国防担当国務大臣と会談し、成果文書として、軍事協力に関する両国国防省間協定に署名。

・同日、パントゥス委員長はボワルディ UAE 国防担当

国務大臣及びタワズン評議会幹部とそれぞれ会談。
ベラルーシ・UAE 二国間の軍事技術協力の進展につき、UAE 領内での新製品の開発・生産を含めて協議。
・11 月 14 日、パントウス委員長はサーイグ UAE 国務大臣と会談。

・国際航空展「ドバイ・エアショー2023」に、パントウス国家軍需産業委員会委員長を団長とするベラルーシ軍需産業の企業団が出展。
(11 月 13 日、14 日 国家軍需産業委員会)

●ベラヴィア航空は、ガザ地区からカイロに非難していたベラルーシ人のためにカイロ-ミンスク特別便を運行

・アルマドブフ駐ベラルーシ・パレスチナ大使は、ミンスク国際空港に到着したベラルーシ人らと面会。特別便の運行に謝意を表明した。
(11 月 16 日 非常事態省、国営ベルタ通信)

●米国「紛争監視団」は、ウクライナ侵略戦争開始以来、少なくとも 2,442 人のドンバス地域の子どもがベラルーシに連れ去られたと報告

報告書は以下の点を指摘。

・ベラルーシの 13 の施設に子どもたちが収容されている。このうち少なくとも 8 の施設で再教育が行われた。また、6 つの子どもたちのグループに対して、軍事訓練が行われたが、ベラルーシ軍での訓練を受けた子どもたちもいた。
・子どもたちはウクライナからベラルーシへ直接移送されるのではなく、ロシアを経由している。
・ウクライナから連れ去られた子どもたちが何人ベラルーシに残っているのかは不明。ベラルーシ側は全員がドンバスに戻ったと主張しているが、その裏付けとなるデータは発見されていない。

(11 月 16 日 米国「紛争監視団」、Pozirk)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(11 月 13 日～11 月 19 日)

・リトアニア国境警備局は少なくとも 151 人を阻止。
・ラトビア国境警備隊は少なくとも 157 人を阻止。
・ポーランド国境警備隊は少なくとも 309 人を阻止。

(11 月 14 日～11 月 20 日 Pozirk)

【経済】

●国営「ベラルーシ・カリ」は、リトアニアが投資保護に関する二国間協定に違反しているとして、裁判所を通じて 10 億ユーロの損害賠償を要求

・2022 年 1 月以降、リトアニアが同社の製品を自国の港湾経由で第三国へ輸出することを禁止したことによるもの。

(11 月 13 日 「ゼルカロ(鏡)」)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の動向

ポルトガル訪問(11 月 13 日～15 日)

・コスタ首相、カレイラス国防大臣らと会談。
・19 日、ポルトガルで開催された「Web Summit」に出席。
(11 月 19 日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

【その他】

●タラセンコ保健次官は、ベラルーシで現在 Covid-19 の変異株「BA.2.86(ピロラ)」の感染が拡大している旨発言

(11 月 16 日 国営ベルタ通信)

●モンテネグロ在住ベラルーシ人は、合法的な滞在の継続を当局に要請するピケを実施

・同ピケは、9 月 7 日に、ベラルーシの在外公館での旅券の発行及び更新が停止されたことに関連して行われたもの。モンテネグロ政府及び同国外務省は本件に関して反応していない。

(11 月 18 日 「ゼルカロ(鏡)」)

(了)